

テキストと実世界のアンカーを考える

For the Node that constructs Text and Real World

森田 均[†]
Hitoshi Morita

[†]長崎県立大学
University of Nagasaki
morita@sun.ac.jp

Abstract

This article explains the idea that uses place code of the real world as a text generation method.

Keywords — Information service, Light Rail Transit, Navigation system

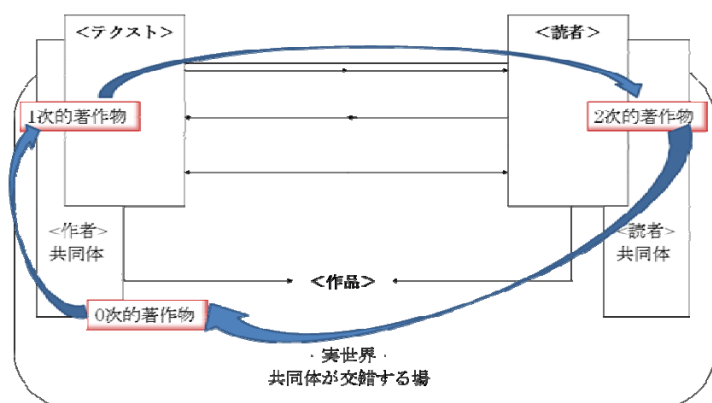
1. はじめに

筆者はこれまで、図1に示すような読者あるいは作者側のコミュニケーション・モデルを示すことによってそれぞれの概念装置を示し、フィールドとしてのテキスト、作品としての実世界というコンセプトを提示して文学や物語の構造的な研究を行って来た。本発表では、従来の成果に基づいて物語ること、説明することにナビゲーションという概念を落とし込むことによって行為の面から作者と読者の問題、テキストと実世界の関係等を再検証する。さらに、テキストから実世界への関連を重視した新たな研究手法を提案する。

とテキストとの間を関連付ける具体的なキーワードは見当たらなかった。しかし、実世界を見渡してみると、カーナビや携帯での道案内というように地図はGIS, GPSによって土地とデータがタグ付けされている。それならば、GIS, GPSを自分の研究に導入してみよう、と考えた。まずはITSを情報社会論と接合させ、次の段階で記憶と記録、記憶と物語の研究にGIS, GPSを持ち込むこととする。以下で新しい研究の構想と展望を述べる。

3. ITSの手法

高度道路交通システム(ITS: Intelligent Transport System)は自動車と道路の双方を情報通信技術によって制御することで移動や運搬の手段を安全性経済性と環境に配慮したネットワークへと変貌させた。ITSによる開発やシステム構築においては、問題解決と開発目標を明確化するために必ず開発対象地域のコミュニティ形成にも関与することになる。これは「つくる」側からの実践である。一方で情報社会論の研究手法は、情報通信の高度化が進展する社会を観察する「使う」側からの参与であった。本研究では、研究者・官公庁・地域社会等の様々なコミュニティを参与的に観察し、社会実験においてはサービスの提供側として実践することによってITSの手法を取り入れ、積極的に社会と関わる能動的な研究方法・手法を情報社会論へもたらし、これを援用してテキストと社会との関係の新たなモデルを得ることを目的とする。



<図1: 作者を復活させたモデル>

2. テキストから実世界へ

これまで[1]に倣って、文学の研究にグラフと地図と樹形図を持ち込む試み[2]を行ったが、実世界

4. 研究の系譜

本研究は、計算文学理論を基盤としたハイパー

テキスト小説の開発を通じてコンテンツ研究の手法を検証した [2], 地上波テレビ放送を録画・内容分析し, 原爆に関するメディア・ランドスケープを明らかにした [3], テキストとしてのフィクションと社会との関係性を検討した [4]に続けて, コンテンツと社会との関わり新たな研究手法をもたらすことを目的としたものである. コンテンツと社会との関係を手掛かりに行って来た上記の研究に対して, 本研究は異分野の手法や知見を援用すること, 情報通信技術によって変容する地域社会と能動的にかかわることがその特徴である. 具体的には a)長崎 EV&ITS プロジェクト (図 8 に示した位置情報関連サービスを構築) における参与観察の機会としてのワークショップ [5] [6] [7] [8], b)長崎市 LRT ナビゲーション推進協議会における路面電車位置情報配信システム事業 (図 2~7) の実践[9] [10] [11]の記録をデータとして活用する.



<図 4: 表示範囲変化後の画面>



<図 5: 移動支援情報>



<図 2: PC 専用サイト画面>



<図 3: バリアフリートイレ情報表示画面>

低床車両運行情報
トコネ(モビル)
■3000形■

- 3001号車
4系 正覚寺下
宝金屋[17:23]
- 3002号車
5系 石橋
大浦天主堂下[17:23]
- 3003号車
1系 正覚寺下
若菜町[17:23]

■5000形■

- 5001号車
3系 赤迫
長崎駅前[17:23]

情報更新

□乗車登録□
車椅子・ベデーカー等をご利用の方は「乗車登録」を行うと乗車意思を運転士に伝える事ができます。
乗車登録

Powered by 昇精光
情報提供
長崎電気軌道



<図 7:リアルビュー>

<図 6: 携帯専用 Web サイト>



〈図 8:長崎 EV&ITS の観光情報配信用 Web〉

5. メタファーから現実へ

情報社会論の研究は、道路や鉄道をネットワークのメタファーとして用いながらもあくまで情報化以前の存在として位置付けていた。ところが、自動車工学は CAN (Controller Area Network) によって自動車そのものを制御工学は ITS(Intelligent Transport System) によって道路や鉄道を智能化し、人・物の流れと情報の流れを一体化させている。情報社会論がインターネットと社会との共生や融合を目指すならば、こうした高度に智能化した交通網を再度参照する必要がある。ITS は、GIS(Geographic Information System), GPS(Global Positioning System)等の地理情報、測位システムという要素技術を取り入れ、産学官で議論を重ね、その成果を実装して社会へ提供している。

6. 「現実」に参加する：研究の特徴

本研究は、このように物流・交通を情報化・智能化した ITS の手法を導入して情報社会論が研究分野として社会に貢献することが可能か検討することを最終的な目的としている。異分野に学び、道路や鉄道が高機能化されるコミュニティへの参与と実践によって参与観察、実践という情報社会論にとっても馴染みの手法を活性化させる。これは、学問分野としての ITS への参与観察でもある。活用するデータや実績は本研究の代表者が主体的な役割を果たした長崎県や長崎市が関与する既存のプロジェクトから得られたものである。こうした入り組んだ状況の中から客観的な理論とテクス

トと社会との新たなモデルを得るという成果を同時に得ようとするところが本研究の特徴である。

7. フィクションの中へ：研究の射程

工学分野におけるロボット研究は、「ロボット工学」(Robotics)という用語を SF 小説[12]起源としている。そればかりかロボットのコンセプトも同じ作品集の冒頭に掲げられた「三原則」に配慮しており、フィクションが現実を牽引する好例となっている。本研究においては、人文社会科学の分野として[13]で登場人物が提案した「仮想民俗学」に着目しておきたい。この点は、[4]を引き継ぐものでもあり「ヴァーチャル・エスノグラフィー」と対峙させることも想定している。

8. 実践の事例と展望

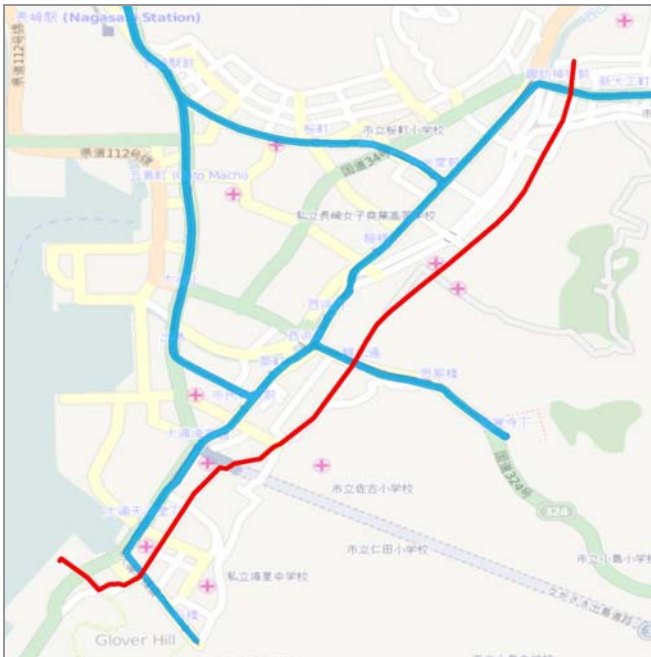
本研究は、社会参加による実践を重要な構成要素としている。ここでは現在進行中の試みを述べ、併せて今後を展望する。

長崎市内の新大工町から大浦町にかけての市内中心部を通る道路には図 9 に示したような銘盤が 45 箇所埋設されている。図 10 の赤の軸がこれにあたる。現在、筆者の研究室ではこの軸で緯度経度の測定を行い場所情報コードを整備している。青軸の長崎電気軌道の軌道はこれまでの事業で歩行空間ネットワークデータの整備を済ませている。他に隣接区域で別事業による整備実績があるが、新たに整備するデータと既存の成果を融合させて位置情報等を歩行支援に活用し、路面電車と歩行を組み合わせ、利用者のニーズにきめ細かく応じられる利用方法を提案する。青と赤の軸から面を形性し、路面電車と歩行の「乗換」を容易にしたエリアをつくる。

長崎市内の中心部は、実世界の場所と様々な史実、物語の現場となっている。以上のようなデータ整備を行うことによって、テキストと実世界の結節点を設けることが出来ないか。これが本研究の究極の検討項目である。



<図 9:長崎 EV&ITS の観光情報配信 Web>



<図 10:長崎 EV&ITS の観光情報配信 Web>



<図 11:長崎電気軌道の電停に設置された
外国語案内板>

参考文献

[1] [Moretti 05] Moretti, F.: Graphs, Maps,

Trees Abstract Models for a Literary History, Verso, 2005.

[2] [森田 07] 森田均: 文学テキストのハイパーテキスト変換, 雄松堂, 2007.

[3] [森田 09] 森田均: テレビ番組分析手法の精緻化へ向けて —平和式典と長崎くんち—, 国際情報学部研究紀要第 10 号, 長崎県立大学, pp.117-131, 2009.

[4] Morita, H.: From the Real World to a Literary Text, Proceedings of the 21th Congress of the International Association of Empirical Aesthetics, CD-ROM, 2010.

[5] 森田均: 電気自動車と高度交通システムで実現させる未来型ドライブ観光 —長崎 EV & ITS が五島列島で描く夢, ソフトウェア・シンポジウム SS2011 招待講演, ソフトウェア技術者協会, 2011.

[6] 森田均: まちづくりに貢献するナビゲーター —長崎 EV&ITS の ITS 搭載カーナビから長崎電気軌道の「ドコネ」システムへ, 国際情報学部研究紀要第 12 号, 長崎県立大学, pp.181-193, 2011.

[7] 渡部康祐・鈴木高宏・松本修一・森田均: 長崎 EV&ITS における未来型ドライブ観光の実現に向けた地域発 ITS コンテンツ・サービス提供システムの構築, 土木計画学研究・講演集 43, 土木学会, CD-ROM, 2011.

[8] 渡部康祐・鈴木高宏・松本修一・森田均: 長崎 EV&ITS における未来型ドライブ観光の実現に向けた地域発観光 ITS コンテンツ・サービス提供システムの開始, 土木計画学研究・講演集 45, 土木学会, CD-ROM, 2012.

[9] 森田均: 「3G 回線を活用した路面電車・利用者双方向位置情報配信システムによる歩行者移動支援サービス」のご紹介, 総合交通メールマガジン第 40 号, 国土交通省, 2011. (URL=<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1110idousienn.pdf>)

[10] 森田均: まちづくりに貢献するナビゲーター — 長崎 EV&ITS の ITS 搭載カーナビから長

崎電気軌道の「ドコネ」システムへ, 国際情報学部研究紀要第 12 号, 長崎県立大学, pp.181-193, 2011.

- [11] 森田均・松坂勲・山口泰生・高比良惣・山口文春: 地域モビリティに貢献するナビゲーター 長崎電気軌道の「ドコネ」, 土木計画学研究・講演集 45, 土木学会, CD-ROM, 2012.
- [12] Asimov, I.: I, Robot, Gnome Press, 1950.
- [13] 北森鴻: 写楽・考, 写楽・考 蓮杖那智ワールドファイルⅢ, 新潮文庫, pp.171-305, 2008.